

腸チフスワクチンの予防接種を受けられる方へ

ワクチン接種の適応

腸チフスは南アジア、東および東南アジア、アフリカ、カリブ海諸島、中南米などで流行しており、汚染された水や食物を摂取することで起こります。感染すると、発熱、頭痛、倦怠感、食欲不振、肝脾腫、発疹が1ヵ月続くことがあります。重篤な合併症の腸出血や腸穿孔では命にかかわることがあります。

感染するリスクが高い地域への旅行者は腸チフスワクチンの接種が推奨されています。ワクチンは、接種者の50～80%で予防効果がみられます。2,3年経つと再接種が必要です。

ワクチンについて

使用ワクチン：Typhim Vi (Sanofi Pasteur 製)

0.5 mL (25 mg)の用量を1回筋肉内接種します。このワクチンは、渡航の2週間以上前に接種しなければなりません。メーカーは2歳未満の乳幼児にはこのワクチンは推奨していません。国内で承認されている腸チフスワクチンはないため、輸入ワクチンを使用します。

ワクチンの安全性と副作用

頭痛(16～20%)と注射部位の反応(7%)が最もよく起こります。ワクチンを接種してはいけないのは、過去に腸チフスワクチンで重度の局所反応や全身性反応を起こした場合と発熱している患者です。

注意事項

輸入ワクチンのため、副反応が生じた時は国の救済措置、補償が適応されませんが輸入商社が提供する輸入ワクチン補償制度を利用できます。制度の利用には、裁判で輸入ワクチン接種による被害であることが認められる必要があります。輸入ワクチン補償制度以外は当院では補償できません。